

医 動 物 学

科目責任者 新 任 教 授
学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

医動物学は、人体に病害を及ぼす動物全般に関する学問で、その中に含まれる寄生虫（病）学は、宿主-寄生虫相互関係（host-parasite relationship）の解明という大きな目的をもっています。医学のなかでは他の領域や臨床各科とも深い関連を有し、社会医学的な考え方も要求される学問です。医動物学では人体に寄生し病害を与える原虫類、蠕虫類ならびに疾病媒介動物を対象とし、近年の活発な国際交流に伴い増加傾向にある輸入寄生虫病や人獣共通寄生虫症について、グローバルな視点でとらえることが重要です。

本科目を通して、患者やその家族、医療関係者をはじめ、幅広い人々から信頼される医師として活躍できる知識を習得することが期待されます。

試験は講義で解説した内容を咀嚼して理解していれば解答できる問題を出題します。

II. 担当教員

教 授 新 任 教 授 (熱帯病寄生虫病学)
教 授 川 合 覚 (熱帯病寄生虫病学)
講 師 桐 木 雅 史 (熱帯病寄生虫病学)
助 教 Marcello Otake Sato (熱帯病寄生虫病学)

III. 一般学習目標

人体に寄生し、病害を与える原虫類・蠕虫類ならびに疾病媒介動物の形態、生態、発育史および感染経路を理解し、それらに起因する疾病の基本的病態、診断、治療、予防について基礎的知識を習得する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 寄生虫の生物学的特性すなわち形態、構造、機能、生活環を説明できる。
- 2) 原虫類、蠕虫類感染とそれらによる病態を宿主-寄生虫関係の面から説明できる。
- 3) 寄生虫性疾患における媒介動物の役割と病原体の伝播様式について説明できる。
- 4) 寄生虫の分類・同定の基本的事項について説明ができる。
- 5) 免疫学的診断法を理解し、寄生虫性疾患の補助診断について説明できる。
- 6) 寄生虫性疾患の予防法及び撲滅対策を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業形式(事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2: ディスカッション 3: グループワーク 4: 実習 5: プレゼンテーション 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	5	7	金	1	医動物学総論	川 合 覚	1
2		7	金	2	線虫性疾患 1【総論/各論1】	新 任 教 授	1
3		7	金	3	線虫性疾患 2【各論2】	新 任 教 授	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
4	5	11	火	1	吸虫性疾患 1【総論／各論1】	桐 木 雅 史	1
5		11	火	2	吸虫性疾患 2【各論2】	桐 木 雅 史	1
6		11	火	3	条虫性疾患 1【総論／各論1】	Marcello Otake Sato	1
7		13	木	1	条虫性疾患 2【各論2】	Marcello Otake Sato	1
8		25	火	3	原虫性疾患 1【各論1】	川 合 覚	1
9		25	火	4	原虫性疾患 2【各論2】	川 合 覚	1
10		26	水	4	日和見感染をおこす寄生虫症・人獣共通寄生虫症	川 合 覚	1
11	6	3	木	1	寄生虫症の検査・診断法	桐 木 雅 史	1
12		3	木	2	衛生動物	桐 木 雅 史	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（90%）、ミニテスト（10%）の比率で評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 教科書：「図説 人体寄生虫学」 南山堂
- 2) 参考図書：「令和3年度 獨協医科大学医動物学実習書」 熱帯病寄生虫病学講座 編

VIII. 質問への対応方法

- 1) 随時受け付け可能。
- 2) 講義内容に関して質問がある場合は、講座メール（tropmed@dokkyomed.ac.jp）に担当教員の名前を記してアポイントを取り、教員の指示に従う。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験問題は公開しないが，各問題の要点をLMSで公開する。

XI. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載